

京都部落問題 研究資料センター通信

第10号

発行日 2008年1月25日 (年4回発行) 編集・発行 京都部落問題研究資料センター

報告 部落史連続講座

京都の被差別部落と仕事

第1回

京野菜作りを支えた

在日朝鮮人

講師 高野 昭雄さん

(高校教員)

報告 金森 襄作

二〇〇七年度部落史連続講座第二期一回目の講座は、「京野菜作りを支えた在日朝鮮人と題して高野昭雄さんを講師に迎えて」一月九日に開催された。

戦前の京都周辺地域では「米作り」ではなく、すぐき菜・大根・かぶ・ねぎなど、いわゆる京野菜がひろく栽培されており、すぐきは千枚漬や柴漬と共に京漬物の三大銘品となっていて、京都だけでなく大阪・神戸などにも出荷されていた。そして、そのすぐきの素材となるすぐき菜のほとんどが上賀茂地域で集中的に栽培されていた。

当時、野菜作りにはまだ化学肥料は使われておらず、尿尿が大量に使われていた。元来、この尿尿は農民が直接市内に出かけ汲み取つ

て得ていた。しかし、京都市人口

の急増・消費の拡大が進んだ。すぐき菜作りの專業化が進み、労働力も不足になっていった。このような状況のなかで、一九二〇年ごろから上賀茂では尿尿汲取に従事する朝鮮人が定住しはじめ、一九三〇年後半期には、尿尿汲取の大半は彼らによって行われるようになった。そして、上賀茂では一九三五年には、総人口七、六三一人中、朝鮮人が八九六人、一九四〇年代初頭には、実に上賀茂国民学校生徒の中で朝鮮人生徒が五六・四%を占めるようになった。これは京都ではもつとも高い比率であり、上賀茂が朝鮮人集住地になっていった、という極めて興味深い発表であった。他に上賀茂には砂利採取に従事する朝鮮人についての言及もあったが、ここでは省略する。

このような尿尿汲取に朝鮮人が従事した事実を明らかにしたのは、高野氏が初めてのことだといえようが、二つの課題が残されている

と思われる。

一 野菜の種類は違っても京都周辺ではほとんど專業化していた。たとえば、西院村では反当り汲取尿尿量は上賀茂の一・五倍もある。何故、上賀茂だけに朝鮮人汲取業者が集住したのか。

二 その後、市内での汲取業者不足がより深刻化していったのだが、何故上賀茂から朝鮮人汲取業者が減少していったのか。市内では朝鮮人組取業者は存在したともいう。

(京都部落問題研究資料センター運営委員)

第2回

ロシアに渡った靴職人たち

講師 前川 修さん

(地域福祉センター希望の家職員)

二〇〇七年度部落史連続講座第二期二回目の講座は、「ロシアに渡った靴職人たち」と題して前川修さんを講師に迎えて一月三〇日に開催された。

前川さんは部落史調査で訪れた近江八幡や東七条の部落に残されていた帝政ロシアのルーブル紙幣やロシア渡航のパスポートに興味を持ち、研究を進められた。そのなかで明らかになったのは、部落の靴職人たちがロシアへ渡っていったという事実だった。

一九一四年、第一次世界大戦が始まりロシアから大量の軍需品が日本に発注されるようになった。翌年には百万足の軍靴が注文され、皮革・製靴業が大盛況となり、被差別部落の製靴業者へも下請の大量注文が殺到し始めた。

しかし一九一七年、革命を前にロシア国内が大混乱する中で、大資本はロシアとの取引から撤退をしていくが、部落からは一獲千金を夢みて、危険な状況の中をロシアへ渡る業者が相次いだ。一九一七年五月の『日出新聞』は、柳原町からウラジオストツクへ靴職人たちが渡って靴販売や製造をさかんにおこなっている、と報じている。

結局、その後ロシア革命が成立、日本のシベリア出兵も失敗し、靴職人たちがロシアで命がけで稼いだルーブル紙幣は紙屑となってしまうのである。

これらの事実について、当時の新聞記事や聞き取りを使って詳しく説明された。

最後に前川さんは、このたくましく、したたかに生きた当時の靴職人たちの歴史を埋もれさせてはならないとしめくくられた。

(文責 事務局)

サントリー美術館蔵

『日吉山王祇園祭礼図屏風』にみえる犬神人について

奈良大学文学部准教授 河内 将芳

京都の夏祭を代表する祇園祭といえ、山や鉾の祭と考えている人が多いと思うが、この山や鉾が登場してくるのが鎌倉時代の終わりごろからということを知っている人は思いのほか少ない。

それ以前は、祇園社（現在の八坂神社）から三基の神輿が京中の御旅所へ渡ってくる神輿渡御が祇園祭そのものであり、鎌倉時代の終わりがころから山鉾巡行が新たに加わって、祇園祭はふたつの祭事をそなえる祭礼となった。

このかたちはもちろん今でも同じで、七月一七日（旧暦の六月七日）の午前中に山鉾巡行（前祭）がおこなわれた後、その夕刻、八坂神社より三基の神輿が御旅所へ渡ってくる。これを神幸祭、あるいは神輿迎といひ、祇園の神々は七日のあいだ御旅所に遷座することになる。

そして、それから七日たった七月二四日（旧暦の六月一四日）の午前中にふたたび山鉾巡行（後祭、現在はおこなわれていない）がおこな

れた後、その夕刻、三基の神輿は御旅所より八坂神社へ帰ってゆく。これを還幸祭、あるいは祇園会（祇園御霊会）といひ、このことから祇園祭といえ、古くはこの還幸祭を意味したことがわかるだろう。

ところで、現在、御旅所は四条寺町の一カ所となっているが、このようになったのは豊臣秀吉の時代以後のことであった。それ以前は御旅所が二カ所あり、そのひとつが高辻烏丸にあった大政所御旅所、もうひとつが冷泉烏丸にあった少将井御旅所であった。

なぜ御旅所が二カ所もあったのかというと、三基の神輿のうち、大宮と八王子とよばれた二基の神輿が大政所御旅所へ渡り、残る一基の少将井とよばれた神輿が少将井御旅所へ渡っていたからである。少将井御旅所があった場所は現在京都新聞社となっているが、このことからわかるように少将井といふ神輿だけはかなり北のほうまで渡っていた。

また、現在の神輿渡御のルート

はかなり複雑なものとなっているが、江戸時代が終わるころまではいたってシンプルなものであった。というのも、神幸祭のときは、鴨川を渡ってきた三基の神輿のうち、少将井は東洞院通りを北上して少将井御旅所に入り、残る大宮と八王子は烏丸通りを南下して大政所御旅所に入り、そして、還幸祭のときは、少将井は二条通りを西に行き、大宮通りを南下、大宮・八王子のほうは五条通り（現在の松原通り）を西に行き、大宮通りを北上、三条大宮で三基の神輿が合流し三条通りを東にすすんで八坂神社のほうへと帰っていくというものであったからである。

このようなようすは、戦国時代の京都の景観を描いたことで知られるいくつかの洛中洛外図屏風でもみとれるが、特徴的なのは、いづれもが神幸祭のようすを描いているという点である。たとえば、この時期の洛中洛外図屏風としてはもっとも有名な『上杉本洛中洛外図屏風』でも、神輿渡御は

鴨川を三基の神輿が渡るすがたと
して描かれている。

なぜ還幸祭ではなく、神幸祭だっ
たのかといえ、その理由はいたつ
て単純で、還幸祭のようすを描い
てしまうと、山鉾巡行のうち、山
や鉾の数の多いという点ではなや
かであった前祭を描くことができ
なくなるためであった。

もつとも、山鉾巡行と神輿渡御
にはすでにふれたように時間差が
あるので、それを同じ画面に描く
こと自体に無理があるのだが、さ
すがに別の日におこなわれる還幸
祭と前祭を同じ画面に描くという
無理までをする勇気を当時の絵師
たちはもっていなかったのだろう。
そのようななか、戦国時代の還
幸祭のようすを描いた屏風がある
それが、今回、紹介しようとする
『日吉山王祇園祭礼図屏風』（サン
トリー美術館蔵）である。

この屏風については、すでに美
術史の見地から亀井若菜氏によつ
て詳細な研究（同『表象としての美
術、言説としての美術史―室町將軍足
利義晴と土佐光茂の絵画―』ブリュッ
ケ、二〇〇三年）がなされている。

それによれば、この屏風が制作
されたのは一六世紀半ばころ、ま
た描いた絵師は『桑実寺縁起絵巻』
を描いたことで知られる土佐光茂

とその工房、そしてそれを描かせ
た注文主は室町幕府一二代將軍足
利義晴であったという。くわしい
検証作業については亀井氏の著書
に直接あたっていただきたいが、
たしかに素人目にみても『祇園祭
礼図屏風』のほうは戦国時代の京
都の雰囲気をよくつたえているよ
うにみえる。

したがって、ここからは戦国時
代の還幸祭のようすをみることに
できるわけだが、そのすべてをこ
こでふれるわけにはゆかないので、
一点だけにしぼってみてゆくこと
にしよう。

その注目したいところは、三
基の神輿を奉じた行列がちやうど
三条通りと鴨川の河原の交差点を
南下しようとするあたりにいる六
人の人びとの存在である。その六
人はいずれも同じように白い覆面
に柿渋色の衣、その上に直垂を着
て、手に長い棒をたずさえて、三
人づつ二列ですすむすがたで描か
れているが、白い覆面に柿渋色の
衣といったその出で立ちから彼ら
が犬神人であったことがわかる。

犬神人とは、その所属は祇園社
でありながらも、実際には清水寺
の参詣道の入り口にあたる清水坂
に住んでいたことで知られている
神人である。神人とよばれている



「日吉山王祇園祭礼図屏風」 サントリー美術館所蔵
室町～桃山時代（16世紀）6曲1双 左隻1扇・2扇 部分
祇園祭と日吉山王祭を組み合わせで1双の屏風となっている

が、中世ではそれより下の身分に属していた。

その彼らが神幸祭の際、神輿渡御の先導をつとめていたことについては、『上杉本洛中洛外図屏風』でもみてとれるが、そのいっぽうで還幸祭の際にはどのような位置にいたのかについてはこれまで古文書など文献史料にもくわしく書かれておらず、よくわからなかった。

ところが、『祇園祭礼図屏風』をみてみると、還幸祭の際にも犬神人が神輿の前にすすむようすがみてとれ、これで犬神人が神幸・還幸ともに神輿の先導をつとめていたことがあきらかとなる。このような事実はこれまで文献史料でも知られていなかったため、貴重な発見といえよう。

もつとも、『上杉本洛中洛外図屏風』では神幸祭のとき犬神人が行列の先頭となって神輿を先導していたことがみてとれるが、『祇園祭礼図屏風』では神輿を先導しているとはいいつつも、行列の先頭に位置していない点に特徴がみられる。

彼らが神輿を先導していたのは、南北朝時代の文和二年（一三三三）の史料（『八坂神社文書』）に「祇園社祭礼のとき、犬神人ら六月

朔日より十四日にいたり、社頭を警固し、掃除をいたし、御行のとき、供奉せしむ」とみえるように「掃除」、つまり神輿のすすむ道筋を清める役目になっていたからであった。

その彼らより前に位置し、行列の先頭にいたのはだれかといえれば、乗牛風流とよばれるものである。乗牛風流とは、巨大な冠をかぶったひとりの男が両袖に棒のようなものを通して左右にはり、両手は衣の脇から前に出して笏をもちつつ牛に乗るといふ不思議な仮装のことだが、戦国時代の公家三条西実隆の日記『実隆公記』の文亀元年（一五〇一）六月一四日条によれば、この男は「北畠拍子」だったとされている。

「北畠拍子」とは、おそらく北畠散所ともよばれた声聞師のことと考えられるから、身分としては犬神人と同じようなものだった。つまり、『祇園祭礼図屏風』のよすを通して戦国時代の祇園祭還幸祭では、その行列を乗牛風流が先導し、そして神輿を犬神人が先導するというように、同じような身分のものたちが道筋を清めるといふ重要な役目になっていたことがあきらかとなるのである。

京都府・市における

教育の機会均等への施策について（4）

第三次小学校令以降を中心に

白石 正明

四、就学補助策の頓挫過程（前号続き）

沢柳政太郎普通学務局長の樂觀論とは裏腹に、内務省の文部省案への反撃は着実に押し進められた。一九〇〇（明治三三）年一月の文部省案の閣議提出後の四月の地方官会議では、教育費の町村負担増大を憂える地方官から反対の声が集約された。一八九七（明治三〇）年の公立学校費の六五％は府県市町村が負担し、各行政の側からみると、道府県の歳出の七・五％、市歳出の二二・二％、そして町村歳出の三三・二％が教育関係費に支出されていた（注一）。授業料の国庫負担の方向がみえてきたとはいえ、政府は負担の圧縮への道も強引に整備していたのは、前号で記したとおりである。地方への負担の軽減は、地方官からみて期待できない状況があきらかになっていった（地方官らの悲観的予想は、その後の教育費の地方負担が好転しなかったことに判るように的中する）。

四月二四日付の各府県知事総代東京府知事男爵千家尊福から西郷従道内務大臣宛の建議書は、就学督促のための科料処分を導入すれば（それを免れようとして）就学児童が増加し、当然に、校舎、校庭、教具、さらには教員の不足となり、結果町村費負担の増大となるからこの項の実施は猶予されたい、というものであった。地方官からの建議を受けた内務省は、科料実施猶予に加えて、市町村による就学補助にも反対し、この二項を削除するようにとの意見を内閣法制局におこなった。地方財政の責任者やその主務省からの反撃である。

沢柳の発言（「センター通信」第8号参照）に見られた文部省のゆるい論理では、この反撃を阻止できなかったといえよう。六月二九日、内務省の意向を受けた内閣法制局は、この二項を削除した条文を作成し、閣議に提出した。文部省案の骨子である四項目、つまり、授業料の廃止、就学義務を果たさない保護者への科料、就学督促のた

めの市町村官吏への警察官の補助、市町村費による就学補助のうち二つが、この時点で削除となった。

条文は次いで枢密院に回され、そこで、警察官の地方官吏への補助の項も削除された。削除の理由は、罰則料の項が削除されたのであれば警察力の行使は意味をもたないというものであった(注2)。結局四項目のうち、授業料の廃止だけが残って、八月一日閣議は枢密院修正案を承認、一八日の天皇裁可を経て、二〇日第三次小学校令は公布となった。

五、就学補助策の頓挫と京都府の動き

小学校令改正作業のなかで、就学奨励のためには補助も規制も実施しようとする文部省の計画は頓挫、しかも国庫負担の道筋も狭い範囲に押し込まれていく気配は、地方行政に負担の軽減よりむしろ増大を予感させていったといえる。一九〇〇年一月の段階で、就学補助の方針を模索していた京都府当局が、具体的には動かさず、また、府の意向を受けるような形で就学補助の具体案を作成した紀伊郡などが、それ以降の展開をみせなかったのは、新しい教育改正が(国庫の負担も少なく)地方行政の負担増大がむしろ予想されたなかでのこと

であった。「センター通信」第8号の本稿(3)で述べたように、就学機会獲得の動きがみられるなかで、その動きを加速させる手立てが実施された実例はみつつかつていない。逆に八月の第三次小学校令公布で、「就学の奨励」とともに要求されていく「学校設備の完成」「教員の拡充」は地方教育行政の重荷となつていった。

最初に学校設備の完成についていえば、一八九九(明治三二)年七月の文部省令第三七号「小学校設備準備規則」の発布にそつたものであった。この文部省令は、一八九一(明治二四)年の「準則」を改正したものであった(注3)。京都府は、同年一〇月六日に府令第一〇七号「小学校設備規則」を公布(注4)、既設小学校の内、その事由が認められ猶予されたものを除いて、五年以内に新たな規則に沿つた改修が都市町村に求められた(注5)。京都府の「小学校設備規則」と文部省の「小学校設備準備規則」を比較すると、後者が「準則」で、前者は「規則」であることを割り引いても、京都府のそれは、細かいつまり厳格であった。たとえば、文部省「準則」の第一条に校地の立地条件として、適当な面積、乾燥開豁な場所、通学の便利、それに、「道徳上嫌悪すべき場所喧騒

にして授業に妨げある場所及危険なる場所に接近すべからず」とあるが、京都府は、それに、「成るべく風致に富む」場所とし、更に避ける場所として、「工場鉄道酒樓娼家劇場寄席監獄署火葬場病院若くは病氣発生の虞ある池沼等」授業上躰上衛生上に妨ある場所及危険なる場所に接近すべからず」との一文を追加している。立地条件に具体的枠を設置しているのがわかる。また、「便所」に関する条項では、その周りに堀または樹木を植えるべし、と加えている(注6)。

府内務部長から各郡長あての「小学校設備規則」改正の通牒には、この規則を完遂するには、約五年で四三万九千五百円必要だが、過去三年で平均年七万八千円かつたことを考えれば、「大なる懸隔を見ざるべからざるなり」とある。だが、適切な支出方法を講じて期間内の完遂することを求めている。設備の整備は、「一日も等閑に付すべからざるもの」であるからと(注7)。

「成るべく風致に富む」の字句は残つたが、それ以外は文部省の「準則」と同様となり、具体的な枠は撤廃された。トイレの条項は残つたが、府は設備整備について緩やかな規則にしたことがわかる(注8)。この改正の理由は明らかにされていないが、文部省準則履行以上のものは、財政的に無理であったことがわかる。

学校設備以上に府当局を悩ましたのは、教員不足の問題であった。明治三〇年代に入り、就学率の向上に従い、毎年府内で八〇学級が増加していたが(注9)、それに加えて、一九〇〇年の第三次小学校令は、一学級に一正教員を求めた(注10)。同年の教員不足を都市別

に示すと次頁の表のようになる(注11)。

京都市域と数郡で八〇%を超えているに過ぎない状況がわかる。この教員不足に府市が手をこまねいていたわけではない。教員養成の現状も含めて、その取り組みを次号で述べみたい。

(以下、次号に続く)

注 (1) 『日本近代教育史事典』(平凡社、一九七一年)四六―四七頁。
(2) 地方官吏による就学奨励への警察官の補助の項の削除について、その「慈恵主義」的意図については、佐藤

京都府内尋常小学校正教員数現状

郡・市名	学級数	正教員数	不足数	教員充足率
愛宕	46	32	14	69.6
葛野	57	39	18	68.4
乙訓	41	32	9	78.0
紀伊	69	51	18	73.9
宇治	28	19	9	67.9
久世	42	31	11	73.8
綴喜	59	37	22	62.7
相楽	65	47	18	72.3
南桑田	68	53	15	77.9
北桑田	44	32	12	72.7
船井	96	76	20	79.1
何鹿	66	54	12	81.8
天田	86	61	25	70.9
加佐	76	58	18	76.3
与謝	73	58	15	79.5
中	28	24	4	85.7
竹野	38	30	7	78.9
熊野	23	18	5	78.2
上京	204	185	18	90.7
下京	244	215	29	88.1
計	1,452	1,153	299	79.4

『京都日出新聞』明治33年12月28日

「教員充足率」の百分率は白石記

秀夫『教育の文化史1・学校の構造』(阿吡社、二〇〇四年)五三頁参照。
 (3) 『京都日出新聞』明治三十二年七月二日。
 (4) 『京都日出新聞』明治三十二年八月五日、一〇月七日、一〇月八日。
 (5) 『京都日出新聞』明治三十二年一〇月七日。
 (6) なお、この府令には、第六条に「御真影」「教育勅語」の「奉安所」規程がある。文部省準則にないこの条項がなぜ掲げられたかについては、今回記す材料がない。ただし、この条項は翌三三年の改正ではなくなっている。

(7) 『京都日出新聞』明治三十二年一〇月七日。
 (8) 『京都日出新聞』明治三十二年九月二日、二三日。
 (9) 尾崎ムゲン「京都府会と府師範学校」(本山幸彦編著『京都府会と教育政策』日本図書センター、一九九〇年)三八四～三八五頁。
 (10) 第三五五号。教育史編纂会議『明治以降教育制度発達史』第4巻(龍吟社、一九三八年)七〇～七一頁。
 (11) 『京都日出新聞』明治三十二年二月二十八日。
 (京都部落問題研究資料センター運営委員)

唇裂・口蓋裂成人女性に対するポジティブメイクの適用
 タミー木村
 本願寺史料研究所報 33号(本願寺史料研究所刊、2007.9)
 花山火葬場について(増補) 左右田昌幸
 「『ほうらい(蓬萊・宝来)』考」補足 左右田昌幸
 待兼山論叢 40号(大阪大学文学会刊、2006.12)
 主体化と動員の陣地戦 植民地帝国日本の人種主義と総力戦体制下の部落解放運動を考えるために 廣岡浄進
 もやい 長崎人権・学 54号(長崎人権研究所刊、2007.10):700円
 特集 人権に関する意識調査(2006年11月長崎市公表)を読む 松尾洋
 リージョナル 8(奈良県立同和問題関係史料センター刊、2007.10)
 明治初年の野非人と地域の対応 井岡康時
 大阪府知事渡辺昇と田部密・中尾靖軒 田部密探索 3 奥本武裕
 中世の法隆寺と二人の慶祐 史料紹介 白石畑村医王寺文書 2 寄本和臣
 加守の陰陽師 吉田栄治郎
 助けることと助けられること 岩橋瑞穂
 立命館経済学 328号(立命館大学経済学会刊、2007.7)
 身分引上と醜名除去 「弾内記身分引上一件」の再検討

畑中敏之
 ハンセン病問題とジャック・ロンドン 辻井榮滋
 リベラシオン 人権研究ふくおか 127(福岡県人権研究所刊、2007.9):1,000円
 特集 ホームレス支援の現場から
 野宿者襲撃に対する教育の取り組み 生田武志/ホームの創造 ホームレス支援の現場から 奥田知志
 韓国の衡平運動研究者が見た日本の被差別部落と部落解放運動 金仲燮
 「黒田長政公三百年祭」と松本治一郎 白石正明
 聞き書き・戸切の運動とくらし 脇坂並木さんに聞く 2 くらし編 金山登郎
 映画紹介 映画『ウリハッキョ』(監督:キム・ミョンジュン、2006年、韓国)への応答のために 金泰植
 図書の紹介 『被差別民たちの大阪 近世前期編』(のびしょうじ著) 竹森健二郎
 ルシファー 10(水平社博物館刊、2007.10):500円
 講座報告 1 アイヌ文化の現在~自らの経験を伝えること~ 野本正博
 講座報告 2 「解放令」と水平社運動 金井英樹
 和歌山研究所通信 27(和歌山人権研究所刊、2007.9)
 法制史的観点からみた牢番頭家文書の重要性 安竹貴彦
 『和歌山の部落史』高野山文書編の編纂にあたって 山陰加春夫

特集 障害者の自立と家族

本の紹介 『アイヌ民族の歴史』（榎森進著）竹内涉
「謝罪」とは何か？ 米下院「慰安婦」決議をめぐる
西野瑠美子

隣保館事業の可能性への挑戦 『あしたの隣保館検討委員
会報告書』から 平家陽一

三浦参玄洞と全国水平社 浅尾篤哉

大阪市の使用不許可に提訴 隣保館内にある支部事務所
退去攻撃に対するわが同盟の闘い 赤井隆史

部落解放 589号（解放出版社刊，2007.11）：630円

特集 ニューカマーの子どもの教育

東京音楽通信 変わらぬアメリカ、ジーナ6事件 人種差
別と黒人ミュージック 藤田正

本の紹介 『にんげん 羽音豊 鉾害闘争と部落解放運動』
（福岡県人権研究所 羽音豊調査研究プロジェクト著）
田村正男

座談会 厳しい状況のなかで広げる人権の輪 北陸の被差
別部落のいま 長谷川サナエ、吉田樹、細木英昭、浜岸
政幸、角谷正人

袴田事件の現在 熊本元判事発言を契機に 山崎俊樹
すべての学校で給食を！ 大阪市の中学校給食廃止問題を
考える 多賀仁、田中弘子、田村孝、小池將義

部落・差別の歴史 そのとらえ直しと論点 1 藤沢靖介
部落解放 590号（解放出版社刊，2007.12）：630円

特集 ホームレス自立支援法の見直しにむけて

現代日本社会とホームレス 10年の歩みを振り返って 福
原宏幸 / 虹の連合によるもう一つの全国ホームレス調査
厚労省調査の不十分さを克服して 水内俊雄 / すべての

ホームレスにトータルなサポートを「基本方針見直し」
に求めるもの 奥田知志 / 希望をむすぶおっちゃんたち
の紙芝居劇 日雇い労働者の街・釜ヶ崎から 石橋友美
東京音楽通信 まことにめでとう そうらいける 各地に
残った万歳競演 藤田正

本の紹介

『きずな』（熊本県人権教育研究協議会編） / 『全記録
炭鉾』（鎌田慧著） / 『中流の復興』（小田実著） /
『紙芝居は楽しいぞ！』（鈴木常勝著） / 『NHK受信料
を拒否して40年』（本多勝一著） / 『抵抗する自由 少
数者として生きる』（鎌田慧著）

日系ブラジル人との共生を探る町 群馬県大泉町 神林毅
彦

中国のハンセン病村を訪ねて 西尾雄志

部落・差別の歴史 そのとらえ直しと論点 2 芸能民、民
間宗教者とその社会的位置 上 藤沢靖介

部落解放 591号（解放出版社刊，2008.1）：630円

特集 裁判員制度と人権

本の紹介

『在日朝鮮人ハンセン病回復者として生きた わが八十
歳に乾杯』（金泰九著）林力 / 『絶望社会 痛憤の現場
を歩く 2』（鎌田慧著）

ハンセン病療養所の将来構想を考える 遠藤隆久

部落文化を訪ねて 1 関東 織物機の心臓・竹箴 川元祥
一

部落・差別の歴史 そのとらえ直しと論点 3 第1章 差別
された人々 「賤民」「被差別民」とその「活動領域」
3 芸能民、民間宗教者とその社会的位置 下 藤沢靖介
部落解放研究 178（部落解放・人権研究所刊，2007.10）：
1,000円

特集 第2回部落解放・人権研究者会議報告

今後の人権啓発のあり方について 上杉孝實 / キャリア
教育と人権・同和教育 桂正孝 / CSR報告書における人権
情報 李嘉永

同和地区の学力実態を考える 2006年度大阪府学力調査
結果から 米川英樹

人権意識の諸類型と差別をめぐる評価、判断 人権問題
に関する意識調査（大阪府）から 時岡新

大人教「未来塾」のとりのくみ 人権教育の継承とこれか
らの研究活動 大阪府人権教育研究協議会

長州藩の検断 布引敏雄

部落解放研究 179（部落解放・人権研究所刊，2007.12）：
1,000円

特集 自由権規約に基づく第5回政府報告を批判する

日本の第5回定期報告書について 村上正直 / 部落差別撤
廃の視点から見た問題点 友永健三 / 在日韓国・朝鮮人
の現状から見た問題点 康由美 / ニューカマー・移住労
働者の現状から見た問題点 丹羽雅雄 / 自由権規約報告
第27条とアイヌ民族政策 手島武雅 / 沖縄の歴史と現状
から見た問題点 福地曠昭

青少年会館条例廃止後の大阪市内各地区の取り組みの現
状と課題 「青少年拠点施設検討プロジェクト」第1次
中間報告にかえて 住友剛

資料紹介 松本治一郎記念会館旧蔵資料 松本治一郎関
係書簡・資料から 5 本多和明
書評

佐藤裕著『差別論 偏見理論批判』 益田圭 / 浅尾篤哉
編『三浦参玄洞論説集』 宮橋國臣

部落解放研究くまもと 54号（熊本県部落解放研究会
刊，2007.10）

史料でよむ部落史 山本尚友

胎児性水俣病患者の表象 田尻雅美

部落問題研究 182（部落問題研究所刊，2007.9）：1,1
11円

新安保体制下の日米関係を考える 部落問題解決過程の
研究によせて 佐々木隆爾

人権教育の推進過程における同和教育重視の論理 三重
県教育委員会の方針にふれて 梅田修

書評会 『近世大坂の非人と身分的周縁』（塚田孝著）

部落問題文芸作品発掘 14

『彼の僧』 沖野岩三郎 / 作品解題 秦重雄

文化環境学 1（池坊短期大学文化環境学会刊，2007.3）

て 編集部

月刊地域と人権 286 (全国地域人権運動総連合刊, 2007.11) : 350円

格差・貧困の急拡大と社会保障の課題 下 後藤道夫
月刊地域と人権 287 (全国地域人権運動総連合刊, 2007.12) : 350円

第4回地域人権問題全国研究集会特集

であい 546 (全国同和教育研究協議会編, 2007.9) : 150円

人権のまちをゆく 38 渡来人と近江、大陸文化を湖西に学ぶ～小野妹子の墓、鴨稲荷山古墳、藤樹書院から～乾齊司

人権文化を拓く 125 愛楽園でのアイヌ文化交流 竹内渉
であい 547 (全国同和教育研究協議会編, 2007.10) : 150円

人権文化を拓く 126 侮蔑ではなく、状況のきびしさを共有する言葉を 本田由紀

であい 548 (全国同和教育研究協議会編, 2007.11) : 150円

人権のまちをゆく 40 和歌山 一向一揆とまちづくり運動

人権文化を拓く 127 北の先住民・蝦夷 川上隆志
どの子ども伸びる 382 (部落問題研究所刊, 2007.10) : 735円

「人権教育」批判 「人権教育の指導の在り方について (第三次とりまとめ)」(案)の問題点 1 谷口幸男
どの子ども伸びる 384 (部落問題研究所刊, 2007.11) : 735円

特集 人権教育の実態と問題

「人権教育」批判 「人権教育の指導の在り方について (第三次とりまとめ)」(案)の問題点 2 谷口幸男
どの子ども伸びる 385 (部落問題研究所刊, 2007.12) : 735円

「人権教育」批判 和歌山県教育委員会『人権教育学習プログラム 事例集』について 谷口幸男
なら解放新聞 748号 (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2007.9) : 140円

「部落問題に関わる行政と部落解放運動のあり方提言委員会」の「提言」を読んで。山下力

なら解放新聞 749号 (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2007.10) : 140円

第34回奈良県部落解放研究集会報告

なら解放新聞 750号 (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2007.11)

第44回対県交渉要求書特集

ねっとわーく京都 226 (ねっとわーく京都21刊, 2007.11) : 500円

「同和」で三億円手にしていた中川泰宏氏 「法」失効直前に打った奇策とは... 寺園敦史

ねっとわーく京都 228 (ねっとわーく京都21刊, 2008.

1) : 500円

特集 マスコミ・議会・同和行政

梶本市政12年 同和行政の無惨な後遺症 寺園敦史

書評 <同和>で自縄自縛になった行政の姿を浮き彫りにする。中村和雄+寺園敦史著『さらば!同和中毒都市』を読む 馬野一

はらっぱ 278 (子ども情報研究センター刊, 2007.10)

特集 シリーズ産むこと、産まないこと 女のからだを考える 2

はらっぱ 279 (子ども情報研究センター刊, 2007.11)

特集 シリーズ 産むこと、産まないこと 女のからだを考える 3 利用されつづける女性のからだ

ヒューマンライツ 235 (部落解放・人権研究所刊, 2007.10) : 525円

走りながら考える 78 部落解放運動の成果を忘れていないか 日本社会に多大な影響を与えてきた歴史 北口末広

「同和教育論」の教室から 10 私の出会った華僑・華人 石川朝子

『長史文書』の世界 1 史料の海へ 中尾健次

ヒューマンライツ 236 (部落解放・人権研究所刊, 2007.11) : 525円

パネルディスカッション 人権確立社会にむけた部落解放運動の役割 川口泰司・炭谷茂・組坂繁之・友永健三

走りながら考える 79 「えせ同和行為」を根絶するために 不透明な妥協・譲歩はトラブルの始まり 北口末広

大阪市の青少年会館条例廃止は各地区に何をもちたか? 今後の教育・子育て運動のあり方を考えるために 住友剛

『長史文書』の世界 2 「垣外番」の権利 中尾健次

ヒューマンライツ 237 (部落解放・人権研究所刊, 2007.12) : 525円

走りながら考える 80 BRCのヒアリングを体験して 毎日放送の問題点は指摘したが 北口末広

部落差別の今を捉える手がかりとして 奥田均『結婚差別 データで読む現実と課題』を読んで 椋田昇一

『長史文書』の世界 3 長史の仕事 中尾健次

ひょうご部落解放 126 (ひょうご部落解放・人権研究所刊, 2007.9) : 700円

特集 国際人権規約の意義と活用

映画の紹介 「こんちくしょう」(村上桂太郎監督, 2007年) 障害者自立生活運動の先駆者たち 原田徳子

本の紹介 『ワーキング・ブア アメリカの下層社会』(デイヴィッド・K・シプラー著) 兵藤宏ノ『それでもボクはやってない 日本の刑事裁判、まだまだ疑問あり!』(周防正行著) 鎌田昌平ノ『差別と向き合うマンガたち』(吉村和真・田中聡・表智之著) 野井路尚人

部落解放 588号 (解放出版社刊, 2007.10) : 630円

部落解放 588号 (解放出版社刊, 2007.10) : 630円

部落解放 588号 (解放出版社刊, 2007.10) : 630円

関東大震災朝鮮人虐殺と日本の在日朝鮮人政策 日本政府と朝鮮総督府の「震災処理」過程 盧珠 / 村上尚子 訳

戦前期京都市上賀茂地区における朝鮮人労働者 すぐき・屎尿・砂利 高野昭雄

聞き書き 陸軍少年飛行兵から特攻隊員になった朝鮮人 裴美・野木香里

1950年代民団の「本国志向路線」 盧琦雲

李恢成とアイデンティティ 民族意識から自己発見へ 梁明心

狭山差別裁判 398号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2007.2) : 300円

特集 志布志事件と司法改革

月刊滋賀の部落 410(滋賀県同和問題研究所刊, 2007.10) : 400円

明治21年・新町村造成に際しての各町村・郡の旧穢多村への対応について 山田稔

映画館のしまる日 同和問題研究所によせて 島田耕

滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 19 鈴木俊亮

月刊滋賀の部落 411(滋賀県同和問題研究所刊, 2007.11) : 600円

住民の意識と地域生活 三重県いなべ市の調査を通して 梅田修

月刊滋賀の部落 412(滋賀県同和問題研究所刊, 2007.11) : 400円

滋賀県同和問題研究所の果たしてきた役割～「月刊・滋賀の部落」等出版活動を中心に～ 川本治雄

滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 20 鈴木俊亮

月刊滋賀の部落 413(滋賀県同和問題研究所刊, 2007.12) : 400円

思い出の人と私の希望 東上高志

滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 21 鈴木俊亮

社会科学 79(同志社大学人文科学研究所刊, 2007.10) : 1,000円

近代京都の町式目をめぐって 天神山町の場合 小林文広

人権21 調査と研究 190(岡山人権問題研究所刊, 2007.10) : 650円

特集 岡山人権問題研究所

人権と部落問題 764(部落問題研究所刊, 2007.9) : 1,155円

特集 継続される同和対策とその克服

継続される「同和行政」の現状と課題 尾川昌法 / 八尾市「同和行政の後遺症」の今日的取り組み 八尾市同和

終結市民会議 / 大東市同和対策「後遺症」の克服へ、本腰の取り組み 千秋昌弘 / 新旧の「後遺症」の克服を 湖南省・日野町・近江八幡市 鈴木勉 / 同和事業の復活を許さず、新たな歴史のページをひらく 石坂千穂 / 奈良市の同和不正の根元にあるもの 谷彌兵衛 / 行政評価から見た京都市の同和行政 高橋達也 / 京都市の奨学金問題 井関佳法 / 関連資料 京都市職員の犯罪・不祥事根絶のための提言 市役所の腐敗体質の根本的改善にむけて 市民ウォッチャー・京都

2006年度部落問題研究所定期誌総目次 『人権と部落問題』『部落問題研究』『どの子も伸びる』

2006年度部落問題研究所刊行・文献目録

人権と部落問題 765(部落問題研究所刊, 2007.10) : 630円

特集 生きる権利 5 青年の働く権利

差別と向き合うマンガたち 43 日本マンガの広がりと深まり 「第8回ジャパン・エキスポ」レポート 吉村和真 文芸の散歩道 軍隊式教育批判と徴兵忌避 夏目漱石と明治を歩く 7 水川陸夫

戦後同和行政の展開と支配政策 10 政府・自民党の反動的「人権政策」(中) 杉之原寿一

人権と部落問題 766(部落問題研究所刊, 2007.11) : 630円

特集 地域と人権

現地報告 京都府 京都山城地域での解同と行政の癒着をやめさせるたたかい 谷田みさお

差別と向き合うマンガたち 44 隷属の意味 スキタイとヴァイキング 田中聡

文芸の散歩道 土方鐵著『小説 石田波郷』 渡辺巳三郎

戦後同和行政の展開と支配政策 10 政府・自民党の反動的「人権政策」下 杉之原寿一

人権と部落問題 767(部落問題研究所刊, 2007.12) : 630円

特集 「教育改革」は何をもたらすのか 「全国学力テスト」と全同教 山脇正孝

差別と向き合うマンガたち 45 情緒としての差別と制度としての差別 ロリコンマンガ規制問題 表智之本 『差別と向き合うマンガたち』(吉村和真・田中聡・表智之共著) 園田美和

文芸の散歩道 小林綾著『部落の女医』 同和対策事業直前の部落の生活像を人情豊かに綴った記録 桑原律

振興会通信 86号(同和教育振興会刊, 2007.9)

同朋運動史の窓 2 左右田昌幸

月刊スティグマ 138(千葉県人権啓発センター刊, 2007.10) : 500円

部落史を歩く 9 資料編 古文書から拾い読む部落史 坂井康人

月刊地域と人権 285(全国地域人権運動総連合刊, 2007.10) : 350円

「人権擁護に関する世論調査」(内閣府)の結果について

- 同和問題再考 82 求められる幅広い視点 田村正男
わたしと部落とハンセン病 25 林力
信州の近世部落の人びと 29 一把稲と旦那場 1 斎藤洋一
- 部落差別の現実 63 部落差別の実態 8 江嶋修作
語る・かたる・トーク 153 (横浜国際人権センター刊, 2007.11) : 500円
- 同和問題再考 83 同和対策特措法の出発 田村正男
わたしと部落とハンセン病 26 一大家族主義 林力
信州の近世部落の人びと 30 一把稲と旦那場 2 斎藤洋一
- 部落差別の現実 64 部落差別の実態 9 江嶋修作
語る・かたる・トーク 154 (横浜国際人権センター刊, 2007.12) : 500円
- 同和問題再考 84 対策を推進させた「同対審」 田村正男
わたしと部落とハンセン病 27 一大家族主義と天皇の仁慈 林力
信州の近世部落の人びと 31 一把稲と旦那場 3 斎藤洋一
- 部落差別の現実 65 部落差別の事例 1 江嶋修作
かわとはきもの 141 (東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2007.9)
- 靴の歴史散歩 86 稲川寛
正倉院と皮革 6 貴重品収納の漆皮箱、金銀鋳荘唐大刀は最高級宝剣 出口公長
皮革関連統計資料
関西大学人権問題研究室紀要 54号 (関西大学人権問題研究室刊, 2007.7)
- 野間宏と部落問題 1 吉田永宏
ブラジルにおけるドイツ系移民について 宇佐美幸彦
軽度発達障害の神経心理学的評価 加戸陽子 [ほか]
共生社会研究 1 (大阪市立大学共生社会研究会刊, 2005.12) : 1,500円
- 特集 格差社会を越える
彷徨する野宿者～自死と抵抗の間～ 青木秀男 / 反グローバルイズムと対抗的主体の可能性 杉村昌昭 / 不平等認識の構造について 島和博
共生社会研究 2 (大阪市立大学共生社会研究会刊, 2007.3) : 1,500円
- シンポジウム 「今こそ部落問題を語る～特別措置法の功罪について考える」 野中広務・大賀正行・野口道彦 (司会)
- 特集 CSRと共生社会への展望
グローブ 51 (世界人権問題研究センター刊, 2007.10)
「松本治一郎の歩み」再考 白石正明
在日一世の記憶 高賛侑
国際人権ひろば 76 (アジア・太平洋人権情報センター刊, 2007.11) : 350円
- 特集 インドの多様性 人権の視角から
こべる 175 (こべる刊行会刊, 2007.10) : 300円
最近読んだ本から 白い黒人 フィリップ・ロス『ヒューマン・ステイン』を読む 恩智理
尼崎だより 近隣の小さな大学に関わって 中村大蔵
四日市から 向こう三軒両隣のおつきあい 坂倉加代子
いのちを生きる それでも免疫療法を受けたい 長谷川洋子
読書余話 天皇直訴事件の報道解禁日をめぐって 野町均
こべる 176 (こべる刊行会刊, 2007.11) : 300円
対談：部落問題、そして『神聖喜劇』1 部落問題と正対する 大西巨人+藤田敬一
四日市から 14 ホスピスでボランティアをする 坂倉加代子
いのちを生きる 5 夏の終わりに 長谷川洋子
こべる 177 (こべる刊行会刊, 2007.12) : 300円
対談：部落問題、そして『神聖喜劇』2 人間と差別について考える 大西巨人+藤田敬一
部落解放同盟に居場所はあるか 山下力
こべる 178 (こべる刊行会刊, 2008.1) : 300円
部落のいまを考える 105 同和教育の成果をなぜ活かせないのか 京都市「学習施設事業」の廃止をめぐって 北村淳
横浜・寿識字学校から 10 幼・少年期の記憶について 大沢敏郎
四日市から 15 “おしゃべり”について考える 坂倉加代子
最近読んだ本から 16 屠畜への眼差しから見えてくるもの 内澤句子著『世界屠畜紀行』 小澤覚
いのちを生きる 6 東京一夜 長谷川洋子
コリアNGOセンターNews Letter 13 (コリアNGOセンター刊, 2007.10)
特集 「ニューカマー」コリアンの最前線
書評 『在日朝鮮人問題の起源』(文京洙著) / 『いのちの授業 がん闘った大瀬校長の6年間』(神奈川新聞報道部編)
コリアNGOセンターNews Letter 14 (コリアNGOセンター刊, 2007.12)
「ウトロ問題」 経緯と現状、そして今後の課題 郭辰雄
書評 『近代ヤクザ肯定論 山口組の90年』(宮崎学著) 101 (水俣病センター相思社刊, 2007.10) : 315円
特集 みなまた環境大学への提言
在日朝鮮人史研究 37 (在日朝鮮人運動史研究会編, 2007.10) : 2,400円
供託をめぐる国家責任と企業責任 古庄正
1920年代、大阪における「内鮮融和」時代の開始と内容の再検討 朝鮮人「救済」と内鮮協和会・方面委員 塚崎昌之

(山折哲雄著) / 『大拙 禅を語る』(鈴木大拙著)
 解放新聞 2343号(解放新聞社刊, 2007.11.5): 120円
 今週の1冊 『日本を滅ぼす原発大災害』(坂昇二・前田栄作著, 小出裕章監修)
 ぶらくを読む 28 隠され消された祭りの被差別民 祇園祭の構造 湧水野亮輔
 解放新聞 2345号(解放新聞社刊, 2007.11.19): 80円
 解放の文学 19 試される戦争への想像力 三崎亜記と『となり町戦争』 音谷健郎
 解放新聞 2346号(解放新聞社刊, 2007.11.26): 80円
 今週の1冊 『家族と法 個人化と多様化の中で』(二宮周平著)
 山口公博が読む今月の本
 『吉原手引草』(松井今朝子著) / 『おひとりさまの老後』(上野千鶴子著) / 『電神と廁神』(飯島吉晴著)
 解放新聞 2347号(解放新聞社刊, 2007.12.3): 80円
 今週の1冊 『日本は中国でどう教えられているのか』(西村克仁著)
 解放新聞 2348号(解放新聞社刊, 2007.12.10): 80円
 ぶらくを読む 29 都市社会の包摂と排斥 無宿、スラム、下層社会 湧水野亮輔
 解放の文学 20 「戦後」を持続させる精神 目取真俊と『水滴』 音谷健郎
 解放新聞 2349号(解放新聞社刊, 2007.12.17): 80円
 今週の1冊 『誰のための『教育再生』か』(藤田英典著)
 解放新聞 2350号(解放新聞社刊, 2007.12.24): 120円
 「部落解放運動への提言 一連の不祥事の分析と部落解放運動の再生にむけて」(全文)
 山口公博が読む今月の本
 『よみがえる日本の古代』(金関恕監修・早川和子画) / 『二荒』(立松和平著) / 『存在することの習慣』(サリー・フィッツジェラルド編)
 解放新聞 2351号(解放新聞社刊, 2007.1.7): 160円
 消滅した天満垣外のふるさとを訪ねて 文 中尾健次・写真 橋本要
 本の紹介
 『エレクトラ』(高山文彦著) / 『反骨のコツ』(團藤重光, 伊東乾編) / 『貧困襲来』(湯浅誠著)
 解放新聞大阪版 1706号(解放新聞社大阪支局刊, 2007.10.8): 70円
 ホームレス全国調査が示す課題 2 脱野宿支援は都市再生のひとつの試み 水内俊雄
 解放新聞大阪版 1707号(解放新聞社大阪支局刊, 2007.10.15): 70円
 ホームレス全国調査が示す課題 3 先例のないホームレス自立支援システムの仕組みづくり 水内俊雄
 解放新聞改進黨 364号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2007.9)
 唄い継ぐところ～私の中の「竹田の子守唄」～ 1 松田

扶邇子さん
 改進黨地区の歴史 15 敗戦後の改進黨地区の様子
 解放新聞改進黨 365号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2007.10)
 唄い継ぐところ～私の中の「竹田の子守唄」～ 1 中松田扶邇子さん
 改進黨地区の歴史 16 「オールロマンス事件」が明らかにしたもの
 解放新聞改進黨 366号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2007.11)
 「学習相談事業等の廃止」から半年が経過して... 改進黨学習施設の現況と今後の在り方を小泉指導主事に聞く上
 唄い継ぐところ～私の中の「竹田の子守唄」～ 1 下松田扶邇子さん
 解放新聞改進黨 367号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2007.12)
 「学習相談事業等の廃止」から半年が経過して... 改進黨学習施設の現況と今後の在り方を小泉指導主事に聞く下
 改進黨地区の歴史 17
 解放新聞京都市版 192号(部落解放同盟京都市協議会刊, 2007.10): 100円
 本と闘いの紹介 『京ガス男女賃金差別裁判 なめたらアカンで! 女の労働』(屋嘉比ふみ子著)
 いま、冤罪をたたかう 3 痴漢冤罪事件
 解放新聞兵庫版 692号(解放新聞社兵庫支局刊, 2007.11.5): 50円
 兵庫における被差別実態と課題 1 就労実態アンケート調査結果より
 解放新聞兵庫版 693号(解放新聞社兵庫支局刊, 2007.11.20): 50円
 兵庫における被差別部落の就労実態と課題 2 就労実態アンケート調査結果より
 解放新聞兵庫版 694号(解放新聞社兵庫支局刊, 2007.12.5): 50円
 兵庫における被差別部落の就労実態と課題 3 就労実態アンケート調査結果より
 解放新聞兵庫版 695号(解放新聞社兵庫支局刊, 2007.12.20): 50円
 兵庫における被差別部落の就労実態と課題 4 就労実態アンケート調査結果より
 語る・かたる・トーク 151(横浜国際人権センター刊, 2007.9): 500円
 同和問題再考 81 よろめいた同和教育運動 田村正男
 わたしと部落とハンセン病 24 林力
 信州の近世部落の人びと 28 斎藤洋一
 部落差別の現実 62 部落差別の実態 7 江嶋修作
 語る・かたる・トーク 152(横浜国際人権センター刊, 2007.10): 500円

収集逐次刊行物目次 (2007年10月～12月受入)

～各逐次刊行物の目次の中から部落問題関係のものを中心にピックアップしました～

明日を拓く 69・70 (東日本部落解放研究所刊, 2007.3): 2,100円

座談会 格差社会と教育現場

格差社会と住宅・住環境 内田雄造

<女>について語られてきたこと 1 はじめに man = 男 = 人間 井桁碧

狭山事件・2007・石川一雄供述調書の検討 身分証明書・時計・脅迫状などについて 大沢敏郎

小豆と狭山事件 最後のわがラクダの背骨を折る 内藤武

神社と被差別部落の関係を考える 藤沢靖介

IMADR-JC通信 151 (反差別国際運動日本委員会刊, 2007.11): 500円

特集 人権条約の報告制度を活かす 自由権規約第5回政府報告書審査に向けて

立ち上がりつなげるマイノリティ女性 アイヌ女性・部落女性・在日朝鮮人女性によるアンケート調査と提言 鷹陵史学 33号 (鷹陵史学会刊, 2007.9)

戦前期京都市における不良住宅密集地区 高野昭雄

解放教育 480 (解放教育研究所編, 2007.11): 750円

特集 在日コリアンと多文化共生

元気のもととはつながる仲間 32 ヒロシマ 62年目の夏

未来の人たちを助けることはできる 外川正明

元気の出る学校! 7 志水宏吉 効果のある学校 寝屋川第四中学校

解放教育 481 (解放教育研究所編, 2007.12): 750円

特集 マイノリティの子どもと表現活動

自分の航路を刻もう トランスジェンダーという生き方 土肥いつき / おとなは子どもの表現に出会うために 上田假奈代, 岩橋由莉 / ジェンダー, 民族的マイノリティと表現活動 皇甫康子 / 音楽室 ささまざまな音色の中で 岸田静枝 / 「『アイあい』ってなに?」 「アイあい」

から「メディア・リテラシー」まで 岡井寿美代

元気のもととはつながる仲間 33 あの丹前の悔しさが闘いの原点 第59回全同教石川大会に寄せて 外川正明

元気の出る学校! 8 教育コミュニティづくり 豊川中学校 志水宏吉

解放教育 482 (解放教育研究所編, 2008.1): 750円

特集 「ひと」とつながり、地域から学ぶ実践を! にんげんセミナー2007 講演記録

元気のもととはつながる仲間 34 金泰九さんの八〇歳に乾杯! 私の人生の目標として 外川正明

元気の出る学校! 9 子どもが育つ学校 野市中学校 志水宏吉

解放新聞 2337号 (解放新聞社刊, 2007.9.24): 80円

山口公博が読む今月の本

『清佑、ただいま在庄』(岩井三四二著) / 『私という謎』(寺山修司著) / 『晩年』(立松和平著)

解放新聞 2338号 (解放新聞社刊, 2007.10.1): 120円
ぶらくを読む 27 「格差と若者」言説の陥穽 湧水野亮輔

解放新聞 2339号 (解放新聞社刊, 2007.10.8): 80円

解放の文学 18 「平和」への静かな戦い 小田実と「終らない旅」 音谷健郎

今週の1冊 『右翼と左翼はどうちがう?』(雨宮処凛著)

解放新聞 2340号 (解放新聞社刊, 2007.10.15): 80円
今週の1冊 『立ち上がりつなげるマイノリティ女性』

(反差別国際運動日本委員会刊)

解放新聞 2341号 (解放新聞社刊, 2007.10.22): 80円

今週の1冊 『「ハンバーガーを待つ3分間」の値段』(斎藤由多加著)

解放新聞 2342号 (解放新聞社刊, 2007.10.29): 80円

山口公博が読む今月の本

『まだ、生きてる...』(本宮ひろ志著) / 『親鸞の浄土』

事務局よりお知らせ

今回、奈良大学の河内将芳さんに紹介していただきました「日吉山王祇園祭礼図屏風」は、昨年の秋に大阪市美術館で開催された「BIOMBO/屏風 日本の美」展に出品されていましたが、「犬神人」がはっきりと描かれている屏風があると聞き観に行ってきたのですが、勇壮ないでたちで衣の柿色もはっきりと見え、驚きの対面でした。3頁の図版はスペースの関係で小さくなってしまい残念です。

今年度の連続講座(全6回)の講演録が4月に完成します。ご希望の方は下記までご連絡ください。

所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター 3階

TEL/FAX 075-415-1032

URL <http://www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/>

開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時(祝日・年末年始は休みます)

交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩2分